

「世界津波の日」 高校生サミット in 黒潮

防災をテーマに国内外361人の高校生が集まる

レポート：小橋賢二

黒潮町 情報防災課情報推進係長



2016年11月25日～26日、高知県黒潮町を舞台に「『世界津波の日』高校生サミットin黒潮」が開催された。

ー津波の日とはー

日本では2011年6月に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、11月5日を「津波防災の日」と定めてきたが、2015年12月22日の第70回国連総会本会議において、142カ国の共同提案を得て「世界津波の日」が満場一致で採択された。これを記念する最大の啓発イベントが本サミットである。

ーサミットの目的ー

次世代を担う若者たち、その代表とし

て各国の高校生がそれぞれの国の防災対策や課題を報告し合い意見交換をする中で、津波による被害や復旧・復興の現実を正しく認識し、お互いの知識を深め、防災への意識を高めることで、自分たちに何ができるかを自ら考え、それぞれの国で津波災害だけでなく、あらゆる災害からの被害を最小化することのできる防災リーダーを育成することが目的である。

ー参加者と参加国ー

津波を含めた自然災害の多くがアジア太平洋州に集中しており、世界に占める被災者割合で見ても約8割がこの地域に集中している。こうした現実を踏まえ、参

加国は津波被災国やアジア、ASEAN、太平洋州を中心に津波防災関心国はもちろん、北米や南米、欧州、中東、アフリカからも参加があり、世界30カ国、国内から115人、海外から246人の合計361人の高校生が参加した。関係者を含めると500人を超えている。

ーなぜ黒潮町でー

高知県黒潮町は、平成24(2012)年に国が公表した南海トラフ巨大地震による被害想定において、津波高34.4mという国内最大の想定を受けた町である。発表当初は「逃げて無駄」というあきらめの意識が広がり、町自体の存続さえ危